

火曜会通信

発行日：平成15年1月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

<巻頭言>

帰らざる河三峽に思う

塩井 陽子

まだ周辺の身近な文化財もよく理解できない身でありながら、少々大げさな話になって恐縮ですが、この度、2009年には世界一のダムとなり、近々第二期工事を終えてその姿を大きく変えるといわれる中国の三峽を下ってまいりました。

国土が日本の約25倍、人口が約10倍といわれる中国ですが、そこには想像を絶する広大な風景と、まったく異なる文化があり、私としては幾度訪れても大きなカルチャーショックを受けてしまいます。

この度の三峽下りは「三峽を見ざれば、長江を語れず」とまで言われるように兩岸の絶壁は切り立ち、茶色く濁った河の色は激しく逆巻きながら流れ、峰は天に連なり、船は地底を行くといった、それは雄大で壮観な景色でした。

この流れのなかに埋葬された三国志の世界を想い、伝説のロマンに耳を傾けると杜甫や李白やいにしへの文人たちが愛で讃えた、遠い昔の日々が蘇ってくるようです。

しかし、現実には美しい山水画の前に巨大なダムの建設現場が立ちはだかり、今年の初めに水位は一気に175メートルに達し、さまざまな歴史的文化遺産が水没することになります。

その数108箇所。このうち幾つかはBC一万年以上から残る貴重な遺産でもあるとか。

自然と共に生きる暮らし、歴史と共に生きる文化財、はたまた未来へと大きく発展する街づくり、環境や生態系に及ぼす影響などなど。

帰らざる三峽の流れに漂いながら過去に、未来にさまざまな思いを馳せ、この度はしっかり考えさせられる旅でもありました。

三峽というのは、四川省と湖北省の間にある瞿塘峽・巫峽・西陵峽の三つの峽谷のことで、中国最大の峽谷です。この峽谷の間には昔から多くの有名な遺跡があります。残念なことにもうすぐできる三峽ダムで、遺跡の多くは水の底に沈んでしまいます。

主な行事予定(1月から4月)

| | | | |
|-----------|------------------|--------|-------------|
| 1月28日(火) | 新年会 | スワンホール | 13:00~16:00 |
| 2月18日(火) | 講座「ため池のはなし」外部講師 | スワンホール | 9:30~12:00 |
| ◎3月11日(火) | 解説「旧岡田家・石橋家」外部講師 | 郷町館 | 10:00~13:00 |
| 4月8日(火) | 年次総会 | 中央公民館 | 9:30~12:00 |

＜ふるさと文化再発見アクションプラン＞

「子どもふるさと学」事業活動報告

11月16日(土) 会場：「ラスタホール」コース 25人

坂根・柴田(博)・山内・藤本・柴田(久)・池田(利)・会員外3名

会場：「北部児童センター」コース 5人

服部・池田(栄)・寺谷・日野・斉藤

共通内容：「史跡の見学」と「土器づくり」 史跡：「御願塚古墳」または「伊丹廃寺跡」

12月7日(土) 会場：埋蔵文化財口酒井整理事務所 25人

坂根・柴田(博)・日野・難波・藤本・柴田(久)・池田(利)・池田(利)・寺谷・服部

内容：制作した土器の野焼きと古代火おこし体験 焼き芋・トン汁・ハーモニカ演奏

☆ アンケートによる感想の一部

- ・ 親子で参加したが楽しい2日間でした。また、このような体験ができますように情報を頂きたいと思いました。子どもの目がいきいきしてきました。(保護者)
- ・ 火おこしが一番楽しかった。野焼きでつくった土器が粉々になり残念だった。(小学生)
- ・ 楽しかった。(小学生、3件)



ラスタホールで土器づくり

土器の野焼き体験

＜新分科会＞

1月28日(火) 「昆陽井沿いを歩く」

ガイド担当 A班

昆陽井樋口から昆陽寺 経由スワンホール(新年会会場)

集合場所：市バス 武庫川センター

集合時間： 10.00

2月25日(火) 「文学碑を訪ねて」第2回

ガイド担当 C班

集合場所：JR伊丹駅

集合時間： 10.00

主な活動の記録

<郷町館ガイド支援>

| | | | | |
|-----------|-----------------|------|----|-------|
| 10月3日(木) | 大阪退職教員の会 | 36人 | 担当 | B班 |
| 10月6日(日) | JR西日本マルニックス梅田支店 | 26人 | 担当 | E班 |
| 10月6日(日) | 伊丹くすのき学級 | 16人 | 担当 | E班 |
| 10月18日(金) | 荻野小学校2年生 | 160人 | 担当 | C班 |
| 10月18日(金) | 神戸市ろうあ協会 | 25人 | 担当 | 池田(利) |
| 10月22日(火) | 伊丹市古物取扱業合同組合 | 30人 | 担当 | 池田(利) |
| 10月24日(木) | 天神川小学校3年生 | 120人 | 担当 | 柴田(博) |
| 10月25日(金) | 市内南塚口1丁目南町会 | 27人 | 担当 | C班 |
| 11月20日(水) | 播磨町ことぶき大学 | 25人 | 担当 | A班 |
| 11月21日(木) | 大阪産業大学人間環境学部 | 12人 | 担当 | B班 |
| 11月27日(水) | 市内在住梶本迪子さん・他 | 7人 | 担当 | A班 |
| 12月4日(水) | 阪神広域行政協議会 | 75人 | 担当 | A班 |

<歴史探訪案内>

| | | | | |
|-----------|--------------------|----------------|--|--|
| 10月17日(木) | 伊丹市老人連合会 | 350人 | | |
| | 北廻り：1班 (坂根、池田栄) | 2班 (寺谷、中尾、松本) | | |
| | 3班 (柳沢、稲美、亀井) | 4班 (池田利、難波、森田) | | |
| | 南廻り：1班 (柴田博、日野、西口) | 2班 (酒井、黒田、中村) | | |
| | 3班 (柴田久、森本、片山) | 4班 (藤本、杉本、渡辺) | | |
| | その他の参加 (服部、後藤、濱野) | | | |

ガイド先：有岡城址・鴨塚・猪名野神社・郷町館

<郷町ガイド>

| | | | | |
|-----------|--------------|-----|----|----|
| 11月29日(金) | 伊丹市民の誓い推進協議会 | 35人 | 担当 | C班 |
|-----------|--------------|-----|----|----|

ガイド先：法巖寺(渡邊)・光明寺(杉本)・金剛院(平松)・猪名野神社(池田利)

<史跡清掃>

| | | |
|-----------|---------------------------|----------|
| 11月17日(日) | 伊丹廃寺：寺谷・稲実・亀井・森田・坂根 | 御願塚古墳：福岡 |
| | 有岡城址：柴田(博)・服部・鍛冶・平松・中重・柳沢 | |

<生きがいデザイナーサービス支援>

| | | | | |
|-----------|------------|-----|----|-------------------|
| 10月15日(火) | 神津ときめきセンター | 12人 | 担当 | 山内・池田(利)・坂根・柴田(博) |
| 10月21日(月) | あじさいセンター | 11人 | 担当 | 山内・池田(利)・亀井 |
| 10月25日(金) | 有岡センター | 12人 | 担当 | 山内・池田(利)・酒井・柴田(博) |

共通内容： 地域の歴史散策・ハーモニカ演奏

辰野・荻野

森本 和郎

昨今、夫婦別姓が言われるようになりました。別姓の是非については議論の分かれるところでしょう。「姓」については一般的なものから、聞いただけで凡そ出身地の見当がつくものや、どう読んでよいのか分からない珍しい姓などがあります。また、「名」については時代と共に変遷があり、調べれば面白いものと思われまふ。一方、ヨーロッパでは名前から文化の側面を知ることができます。映画「007」でおなじみのショーン・コネリーを例にとってみましょう。彼の本名は Thomas Sean Connery で、Sean はスコットランドに多い男性名です。アイルランドではシャーンと発音し、イングランドでは Shane (シェーン) と綴ります。これも西部劇「シェーン」でよく知られており、アイルランドの悲しい歴史が暗示されています。姓コネリーはアイルランドの神話に登場する狼犬ク(cu)から派生した名前です。伝説上のタラの王に由来するものと考えられています。ショーン・コネリーは次第にスコットランドの英国からの独立をめざすスコットランド民族党の活動家となりますが、アイルランド人としての彼の家系や姓にかかわるこのような伝説が、その生き方に影響を及ぼしたものと見られています。このように、一人の姓からでも彼の地の文化を垣間見ることができ、名前に関する興味は尽きません。

*** **

「日の丸への想い」

溝口美佐子

私は父の任地・北鮮で育ち終戦をむかえました。教職にあった父は親しい現地の友人、教え子たちから早く南鮮に脱出するよう強く勧められ、5人の子どもを連れ京城を目指しました。最大の難関である 38 度線（国境）も親切な方のおかげで無事越えられ 19 日目に京城に着きました。3 日後、釜山に輸送船が入るとのことので列車で釜山港に移されましたが、港には乗るべき船はなく、帰国に対する不安感が湧いてきました。他の人たちも思うことは同じと見え、お互いに不安を口にして繰り返し言い合っています。

急に姿が見えなくなった私を心配して父が探しに来ました。私が不安を訴えると父は、「日本は戦争に負けたけど帰る国はある。心配するな」。それから私は胃が痛みだし食事が摂れませんでした。父も母も内心はともかく表面はどっしり構えていたのに、なぜ私だけあんなに不安だったのだろうか、あの頃を思い出すたびに不思議に思います。

不安と胃痛と寒さに眠れぬ夜を明かし、いよいよ集団ごとに埠頭に出ました。そしてそこに横付けされた輸送船の真っ先に目に飛び込んだものに思わず、“あーっ”と声を上げました。「見て！お母さん見て！“日の丸”日の丸だよ。迎えにきたんだね」。私は大きな声で叫び、感極まって人目もかまわずしゃくり上げました。母も回りの人たちも日の丸を見上げて涙ぐんでいます。その時、「この旗は日本の国の旗。祖国の旗だ」と強く思いました。この思いは歳を経た現在も心の底に鮮明に残っております。